

心の栄養剤No129 【おかあさん・・・】

待ちに待った修学旅行が目の前に迫りました。

旅費は母が内職をしながら工面してくれましたし、服も靴もその他の用意もすっかり整えて、嬉しさにひたっていました。ところが旅行の前日になって、私の気持ちは喜びから悲しみへ急に変わったのです。いつものように私たちは学校で旅行のことを楽しく話し合っていました。

「私ね。お父さんにすばらしい旅行カバン買ってもらったの」
「あらそう、どんな色？」 「明るいグリーンだわ6千円だって」
「私は今日買ってもらうんだけど」 「木村さんはどんなカバン？」

私は返事ができませんでした。私の旅行カバンは、それは、三年前なくなった父の残した、ところどころひび割れている男物の古ぼけた黒いカバンでした。その時までカバンのことは少しも気にかけていなかった私は急に目の前が真っ黒になった気がしました。

その晩私は母にねだりました。うるさいほど必死になって新しいカバンを買ってくれとせがみました。でも母は「**お金がないのよ。しんぼうしなさい。**」の一点張りでした。私は母をうらみました。「たった一人の娘が修学旅行に行くのに、お母さんのバカ、バカ！！」そう叫ぶと、私は寢床に飛び込んでふとんを頭からかぶりしました。**"ああ、お金持ちの子に生まれない涙がとめどもなく流れました。**

ついにその日が来ました。あれほど楽しみにしていた修学旅行、それが古ぼけたカバンのためになんと呪わしいものに感じたことでしょう。私は「**気をつけてね**」と言いながら見送る母をふり向きもせず、重い足を引きづりながら駅に向かいました。友達はまだみんな来ていました。たくさんの視線が私のカバンに集まっているような気がして、私はいてもたってもいられない気持ちでした。

私は友達が話しかけても、うわの空の返事をしながら、みんなのカバンを眺めまわしました。どれもこれも立派な新しいカバン、色とりどりでまるで花園のようです。

それに比べ私のカバンがどんなにみすばらしく見えたことでしょう。「ああ、いっそうのこと何も持たないで来た方がよかった」と思いました。私は重苦しい気持ちで車中の人となりました。みんなは楽しそうに親たちと別れのあいさつをしています。

私の母は来ませんでした。私は母が来なければいいと思い続けていました。母なんか見
たくなかったのです。列車が動き出すと、さっそくみんなでおしゃべりやゲームをやり始め、
とても楽しそうです。私はカバンをみんなに見えないように手で隠しながら黙って座って
いました。こんな修学旅行を何年も楽しみにしていた自分がバカらしく思われました。
「木村さん、お菓子を食べようよ」山口さんの明るい声にハッと我に返りました。私は少
しもほしくありませんが、食べないとよけいに変に思われるので、しかたなくカバンを開け
てあめ玉を取り出そうとしました。するとカバンの中に封筒が一枚入っています。表書
きには「**芳子さんへ、母より**」とあります。私はいぶかりながら封を切りました。中には
手紙が入っていました。

「**芳子さん。お母さんは心からすまなく思っています。あなたにどんな
にか新しいカバンを買ってあげたかったことでしょう。でもどうにもなら
なかったのです。お母さんはいっしょうけんめい努力したけれど、どうに
もできなかったのです。お母さんにはあなたの気持ちがよくわかります。
だから心からお詫びします。あなたがつらいだろうと思うので、駅には見
送りに行きません。家の窓から電車が通るのを見送りたいと思います。同
封の2千円はお小遣いの足しにしてください。お母さんはこれだけが精一
杯です。お母さんも、あなた以上に悲しいのです。つらいのです。けど我
慢します。あなたも我慢してください。体に気をつけて、楽しい修学旅行
でありますよう祈っています。おみやげの話を楽しみにしています。では
元気でいってらっしゃいね」**

**私は急に涙がこみあげてきました。私は大声をあげて泣きくなりました。"お母さん
いいのよ、いいのよ、私こそごめんなさい。わがまま言って今までのつらさも、悲しさもふっ
とんでしまいました。なんという深い母の愛情でしょう。"お母さん** 芳子は古ぼけたカバン
で十分です。**このカバンの中には何よりも尊いお母さんの愛情が入っているの
ですもの。私は堂々とこのカバンを振って歩きます。お母さん、ありがとう私は泣
きながらあめ玉をしゃぶりました。そして心の底まで明るくなりました。**

先月の地震以降、なんか少し人生観が変わったような気がします。

「お金や物よりももっと大切な事がいっぱいある」

「人生、一日一日を大切に感謝の気持ちを持って過ごさなくては!!」

何度も口にした言葉ですが、こんな事があると今までとは明らかに重く違ってきます。

そんな中、今月8日は「母の日」です!!

すべての人に「母」がいて「母」がいたからこそ今生き～生かされています。

まずは「母、おかあさん」への感謝の気持ちを今まで以上に強く意識する事
より始めよう!!

